

# 「ほめられる」という毒の話

山梨大学名誉教授・前山梨大学副学長 伊藤 洋

芸の修業に褒められるほど「毒なこと」はない。

「清元節だの、富元節だの

に凝った大店の旦那など

は、出稽古といっって師匠

を家に呼んで稽古をす

る。師匠にとっではこう

いう。下手な横好きの大金

持ち、ふんだんは稽古料は

で、けるし、付に届けも貰

頂ける。だから、こうい

える。弟子を持ち、生活は

お弟子を、下町の評判も

よくなるし、た町、うい

う金持ち。我がまま、い

ちよつと。何言っでん

とを言おうと。何言っでん

だよ。あ。あの師匠、

気に入らない。あ。あ。あ。

ても方から。師匠を「破門」

の、しまったり。は、あ。

か、師匠の好いお声、あ。

旦那、何て。好いお声、あ。

よ、ね。何て。好いお声、あ。

ル、ドジョウ。まるで、アヒ

だ、よ。味のウを呑み込ん

す、嫌。味。ある。言っで

ご、嫌。味。ある。言っで

の、「芸の修業に褒められ

る。ほど。『毒な』と『は

い。』と『毒な』と『は

く。』と『毒な』と『は

戸落語の名作「寝床」の、

五代目古今亭志ん生の出

だしのあらすじである。

「褒められるほど毒な

ことは無い」のは、大衆

芸能の修業だけではない。

い。権力を握ったリ、ダ

の「首長」など、地方自治

も、「褒められること」は

百害あって一利無しであ

る。大方の関心は、新事

与党がどれ程議席を確保

して、できるかに集中した

立、ある山梨県議会議選

は、報道の結果、終わっ

「微妙」な結果、終わっ

よ。微妙な配剤。これは、

れ。ない。配剤。これは、

れ。ない。配剤。これは、

れ。ない。配剤。これは、

れ。ない。配剤。これは、

れ。ない。配剤。これは、

れ。ない。配剤。これは、

れ。ない。配剤。これは、

れ。ない。配剤。これは、

れ。ない。配剤。これは、

れ。ない。配剤。これは、

れ。ない。配剤。これは、

れ。ない。配剤。これは、

れ。ない。配剤。これは、

れ。ない。配剤。これは、

れ。ない。配剤。これは、

れ。ない。配剤。これは、

れ。ない。配剤。これは、

